

科目区分	統合分野	講師名	院外講師	学年	3学年	履修期	2学期						
授業科目	災害看護												
単位・時間数	1単位・15時間	実務経験の有無	有										
授業方法	講義												
科目目標	1. 災害発生後に人々や社会に生じる健康問題・課題と看護の役割について理解する。 2. 災害時の看護活動に参加できる基礎的知識・技術を習得する。												
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 第1～2回 災害看護の歩み 救護活動としての災害看護のはじまり 災害体験から求められる看護の役割の拡大 災害医療の基礎知識 災害の定義 災害の種類と健康障害 災害医療の特徴 マスギャザリングとNBC 災害への対応 災害と情報 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 災害看護と法律 近年の災害における課題と対策 </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 第6回 避難所と仮設住宅 災害とこころのケア 被災者のこころのケア 遺族のこころのケア 被災救援者のこころのケア 救援者のストレスとこころのケア </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第3回 災害看護の基礎知識 災害看護の定義と役割 災害看護の対象 災害看護の特徴と看護活動 </td> <td style="vertical-align: top;"> 第7回 被災者特性に応じた災害看護の展開 1) 子ども 2) 妊産婦 3) 高齢者 4) 障害者 5) 精神障害者 6) 慢性疾患患者 7) 在日外国人 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 第4～5回 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護と実際 急性期・亜急性期 慢性期・復興期 静穏期 トリアージ </td> <td style="vertical-align: top;"> 第8回 科目終了試験 </td> </tr> </table>							第1～2回 災害看護の歩み 救護活動としての災害看護のはじまり 災害体験から求められる看護の役割の拡大 災害医療の基礎知識 災害の定義 災害の種類と健康障害 災害医療の特徴 マスギャザリングとNBC 災害への対応 災害と情報 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 災害看護と法律 近年の災害における課題と対策	第6回 避難所と仮設住宅 災害とこころのケア 被災者のこころのケア 遺族のこころのケア 被災救援者のこころのケア 救援者のストレスとこころのケア	第3回 災害看護の基礎知識 災害看護の定義と役割 災害看護の対象 災害看護の特徴と看護活動	第7回 被災者特性に応じた災害看護の展開 1) 子ども 2) 妊産婦 3) 高齢者 4) 障害者 5) 精神障害者 6) 慢性疾患患者 7) 在日外国人	第4～5回 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護と実際 急性期・亜急性期 慢性期・復興期 静穏期 トリアージ	第8回 科目終了試験
第1～2回 災害看護の歩み 救護活動としての災害看護のはじまり 災害体験から求められる看護の役割の拡大 災害医療の基礎知識 災害の定義 災害の種類と健康障害 災害医療の特徴 マスギャザリングとNBC 災害への対応 災害と情報 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 災害看護と法律 近年の災害における課題と対策	第6回 避難所と仮設住宅 災害とこころのケア 被災者のこころのケア 遺族のこころのケア 被災救援者のこころのケア 救援者のストレスとこころのケア												
第3回 災害看護の基礎知識 災害看護の定義と役割 災害看護の対象 災害看護の特徴と看護活動	第7回 被災者特性に応じた災害看護の展開 1) 子ども 2) 妊産婦 3) 高齢者 4) 障害者 5) 精神障害者 6) 慢性疾患患者 7) 在日外国人												
第4～5回 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護と実際 急性期・亜急性期 慢性期・復興期 静穏期 トリアージ	第8回 科目終了試験												
評価方法	筆記試験(100点)												
テキスト	1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学 (医学書院)												
参考書													
備考 (メッセージ)	既習知識である急性期の看護を土台にして理解を深めて下さい。 但し、施設内における救急医療との違いを踏まえて、災害時における医療看護の困難性・特殊性をイメージし体験を通して、自分のものにして下さい。												

科目区分	統合分野	講師名	専任教員	学年	3学年	履修期	1～2学期		
授業科目	看護研究・演習								
単位・時間数	1単位・45時間	実務経験の有無	有						
授業方法	講義・演習								
科目目標	1. 受持ち患者を通して経験した看護を振り返り、事実から捉えた看護の視点を、文献の理論と照らし合わせて明確にし、看護に対する考えを深めることができる。 2. 論文としてわかりやすくまとめることができ、効果的に発表できる。 3. 他者のケーススタディを論文として評価できる。 4. 指導過程の中で、担当教員と共に看護観が語れるようになる。								
授業計画	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第1回（講義） 1. 事例研究(ケーススタディ)とは 2. 全体ガイダンス 演習の進め方、全体計画 第2回(講義・演習) 3. 疑問から課題へ 4. 研究テーマ絞り込み 第3回(演習) 「研究テーマ絞り込み」【個別指導】 第4回～12回(演習) 「研究計画書」【個別指導】 5. 文献検索と検討【個人使用端末】 6. 研究論文(集録)作成【個別指導】 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 第13回(演習) 7. 研究論文(抄録)作成【個別指導】 第14回～15回(講義・演習) 発表準備【個別指導】 8. 効果的プレゼンテーション 9. 研究発表会の進め方 10. 研究の評価(評価視点) 第16～17回(演習) スライド・発表原稿作成【個別指導】 第18～23回 11. 研究発表の実際 12. 研究論文の評価の実際 </td> </tr> </table>							第1回（講義） 1. 事例研究(ケーススタディ)とは 2. 全体ガイダンス 演習の進め方、全体計画 第2回(講義・演習) 3. 疑問から課題へ 4. 研究テーマ絞り込み 第3回(演習) 「研究テーマ絞り込み」【個別指導】 第4回～12回(演習) 「研究計画書」【個別指導】 5. 文献検索と検討【個人使用端末】 6. 研究論文(集録)作成【個別指導】	第13回(演習) 7. 研究論文(抄録)作成【個別指導】 第14回～15回(講義・演習) 発表準備【個別指導】 8. 効果的プレゼンテーション 9. 研究発表会の進め方 10. 研究の評価(評価視点) 第16～17回(演習) スライド・発表原稿作成【個別指導】 第18～23回 11. 研究発表の実際 12. 研究論文の評価の実際
第1回（講義） 1. 事例研究(ケーススタディ)とは 2. 全体ガイダンス 演習の進め方、全体計画 第2回(講義・演習) 3. 疑問から課題へ 4. 研究テーマ絞り込み 第3回(演習) 「研究テーマ絞り込み」【個別指導】 第4回～12回(演習) 「研究計画書」【個別指導】 5. 文献検索と検討【個人使用端末】 6. 研究論文(集録)作成【個別指導】	第13回(演習) 7. 研究論文(抄録)作成【個別指導】 第14回～15回(講義・演習) 発表準備【個別指導】 8. 効果的プレゼンテーション 9. 研究発表会の進め方 10. 研究の評価(評価視点) 第16～17回(演習) スライド・発表原稿作成【個別指導】 第18～23回 11. 研究発表の実際 12. 研究論文の評価の実際								
評価方法	研究論文作成・発表含む(100点) ※評価表に基づき評価する								
テキスト	1. 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 (照林社) 2. 楽しくなる看護研究 (メヂカルフレンド社)								
参考書									
備考 (メッセージ)	臨地実習と並行して行う授業です。計画的に早め早めに取り組みましょう。自分の看護の実践をしっかりと振り返って、意味づけていく過程を大事にしてください。文献検討する力を身につけ、担当教員と十分に語り合うことをとおして、自己の看護観を明確にして欲しいと思います。「語り合う」時間がとても重要な意味をもたらします。提出マナーを守り、誠実に取り組む姿勢を期待しています。								

科目区分	統合分野	講師名	専任教員	学年	3学年	履修期	1～2学期
授業科目	看護技術統合・演習						
単位・時間数	1単位・45 時間	実務経験の有無	有				
授業方法	講義・演習・実技						
科目目標	1. 多重課題における臨床判断能力、リスクマネジメント能力と適切な看護技術を習得する。 2. 倫理的判断能力を養い、意思決定を支える援助を習得する。 3. 卒業前の看護技術の到達度を認識し、自己の課題を明確にする。						
授業計画	<p><講義概要の説明></p> <p>第1回(講義 45 分) 第10回(演習)</p> <p><1. 対象者の状況に応じた点滴静脈内注射及び輸液管理の方法> 意思決定が困難な場面のロールプレイング・リフレクション</p> <p>第1回 (演習) 第11～12回(演習)</p> <p>1) 援助方法の決定 意思決定への支援の評価</p> <p>(1) 確実な技術の提供</p> <p>(2) 対象者の病状・症状に応じた援助方法の選択</p> <p>(3) 輸液療法中のセルフケアへの援助</p> <p>(4) 起こりうるリスクをふまえたコミュニケーション</p> <p>第4～5回 技術試験(実技) <4. 化学療法 1 日目でのアナフィラキシーショックを起こした場面での対応></p> <p>第6回 技術試験のリフレクション 第13回(講義)</p> <p>1) アナフィラキシーショックに関するリスクの予測</p> <p>2) 緊急時のチームの連携と看護師の役割</p> <p>3) 同室者・家族への対応</p> <p>4) 急変時の記録の記載方法</p> <p>第2～3回(演習) 第14回～16回(演習)</p> <p>1) 受持ち患者ひとり一人の健康問題・看護問題の把握 シミュレーション・リフレクション</p> <p>2) 複数受け持ち時の1日の行動計画立案</p> <p><2. 複数受け持ち時の看護実践(1)></p> <p><3. 患者・家族の意思決定が困難な場面での対応></p> <p>第7回(講義) 第17回(講義 45 分)</p> <p>1) 倫理的判断 第18～21回 技術試験(実技)</p> <p>(1) 状況および患者・家族の思いの理解 第22回 (演習)</p> <p>(2) 倫理的視点からの問題分析 技術試験のリフレクション</p> <p>(3) 倫理的問題解決のためのゴールの設定</p> <p>(4) 倫理的場面での対応の仕方</p> <p>(5) 意思決定への支援</p> <p>第8～9回(演習) <5. 複数受け持ち時の看護実践(2)></p> <p>2) 倫理的行動 3) 時間切迫の状況下での多重課題への対応</p> <p>倫理的判断に基づく援助方法の立案 第23回(講義 45 分)</p> <p><総まとめ></p>						
評価方法	ループブック評価 100 点(うち、点滴静脈内注射の看護技術試験 20 点、多重課題時の看護 30 点)						
テキスト	1. 新体系 看護学全書 看護の統合と実践① 看護実践マネジメント/医療安全 (メジカルフレンド社) 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 (医学書院) 3. 成人看護学シリーズ 緩和・ターミナルケア看護論 (ヌーヴェルヒロカワ) 4. 初心者も活用できる がん医療・がん看護 (南山堂)						
参考書							
備考 (メッセージ)	この授業は、統合看護実習前後の時期となります。各個人が実践に応じた思考力、判断力を向上させるために、自己学習とグループワークを併行しながら進めて下さい。そして、自分の意見をもち活発なディスカッションを行うこと、また実践をしっかりと振り返り主体的に学習することで、効果的なリフレクションにしていきたいと思います。 卒業後の自分の姿を意識し有意義な学びへとつなげて欲しいと思います。						